



成物
渡原山
市
家
海

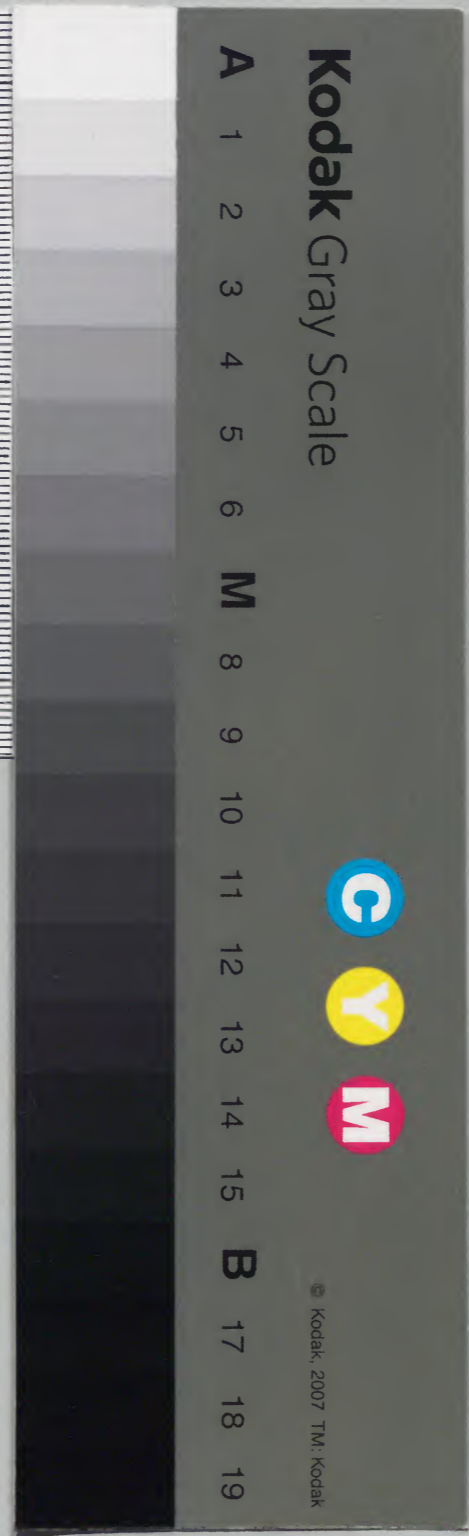
枕草子
巻八抄一

庫	文	閣	内
二 三 函	一 三 架	二 六 七 〇 八 號	和 書 類

和書門		
一 三 冊	二 架	七 五 函
二 六 七 〇 八 號		

内閣文庫	
番號	和 26708
冊數	13 (2)
函號	203 88

雜



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

家光
海八
原八

山八
市八
海八

家八
海八
み

活
類

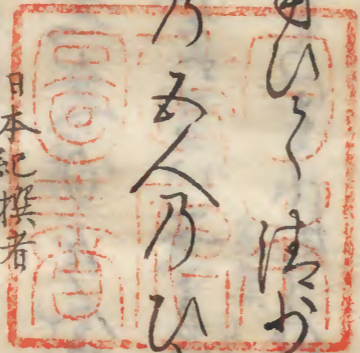
活字本
群書類従本
後略不書之

春曙抄一

淺草文庫



松葉紙、法少納言乃、
あれ、
集乃撰者梨壺乃、
清原氏系圖



天曆五年梨壺乃、
頃時文を撰、

天武天皇

舍人親王

貞代王

有雄

通雄

賜清原姓

海雄

筑前守

房則

豊前守

深養父

内近允藏人所雑色

顯忠

泰光下野守

元輔

肥後守

法少納言

法少納言

去昔法系法説、法少納言、
付皇居宮と中侍、
草紙乃、
文乃、

三条院乃女淑景令道隆云女乃法とてしりまはせし

尺とて思案け草紙一淑景令乃法とてしりまはせし

出房よりまはせしとて一淑景令乃法とてしりまはせし

人乃友あしとて勅カニカへ侍れと一三条院乃長徳年中長保元年

二年とて此事もとてしりまはせしとて一淑景令乃法とてしりまはせし

宮と長保二年十二月十五日りかかれとせしり淑景令ハ

三条院乃東宮りておとすまはせしとて一淑景令乃法とてしりまはせし

をりやまはせしとてしりまはせしとて一淑景令乃法とてしりまはせし

まのつれとて淑景令乃法とてしりまはせしとて一淑景令乃法とてしりまはせし

皇居交際カニのちとて淑景令乃法とてしりまはせしとて一淑景令乃法とてしりまはせし

まのつれとて淑景令乃法とてしりまはせしとて一淑景令乃法とてしりまはせし

新古今集云元輔がむすみ侍る家乃りといふ

法が納ますといふは雪のうらみとて一淑景令乃法とてしりまはせし

とて侍るといふは雪のうらみとて一淑景令乃法とてしりまはせし

又云旨法市百人一首抄云法が納ます後ハ四西乃り

りおちよれといふは雪のうらみとて一淑景令乃法とてしりまはせし

乃隆公関白志カニの定子皇居交り立といふは雪のうらみとて一淑景令乃法とてしりまはせし

いりといふは雪のうらみとて一淑景令乃法とてしりまはせし

上藤乃法とてしりまはせしとて一淑景令乃法とてしりまはせし

へいし法とてしりまはせしとて一淑景令乃法とてしりまはせし

かかれとせしといふは雪のうらみとて一淑景令乃法とてしりまはせし

関白志といふは雪のうらみとて一淑景令乃法とてしりまはせし

上東門院入内ありとて中宮りといふは雪のうらみとて一淑景令乃法とてしりまはせし

とてせし

たす物と乃らるりや 双紙いかにをあらざるかきつ
何ぞもまじい道も昔物よりまじれ想名といふ
けさし乃又辭やとふき物ゆゑ我玉乃玉寶といふ
まゝ源氏物語に双紙稱せられし源氏枕草紙とてりけ
ゆるあや左田乃兼好なりしははれく昔もよけ草紙を廢
せせり而るありしは是れあや何乃優み心乃幽玄更
りいんといふありしははれく

は草紙原本さめく何り或ハ二冊或三冊或之冊一決し
古今を寄集後撰集源氏物語等ハ定家つ乃御本あ
りし世に定家ゆゑ小枕草紙といふはいつ乃御本を
又物ゆゑ承應二年乃去尾列より一本と得り上下二冊
を草紙ありしは中長乃御本ありきは又意あま
やうありしは長をく且又人々乃借官考あど
まされしより奥より原本ある通かきまされたりは本
多本と合せし用はせし事まされたりし奥云云
往年取持之愚本紛失幸久更借出下兩之本令書字
之依無證本不散不審但管見之取及勘合日記等註
付時代年月等謬案歟

安貞 季三月

老及愚翁在判

文明乙未之仲夏廣橋亞槐送寄相院准后本下之本未
兩冊見示曰余書字取希也散余弗獲止馳禿毫彼
旧本不及切句此新字讀而欲容易故此拉之次加朱
點畢

正二位行権大納言藤原朝臣教秀

け菴及愚翁誰人なりや動物をけ作して表長ハ教秀リヒテの
と尺指し奥出乃る御本と用侍る人よと云ふありや
又一本上下二冊本として宮内之儀原氏乃奥出あり露端
より一紙の形はよのけは乃本小大なり似くは次花の次
第あり大きに是也又法が細言乃奇よ〜 物語一紙と云
つねずけ本と先を乃用いする由乃奥出なりと云ふ
事と只モウは菴及愚翁教秀つ等れ奥出の存れおむむを
古人乃用なり。御抄ありし川後拾遺千載集新古今
續古今玉葉集等といふ〜 法が納言乃奇、洞出なりを
皆に存れし御と云ふ〜 外頭徳院乃禁秘抄八雲抄
等も法が納言の記りありと云ふ事あり又基俊
乃辰月抄は香爐等乃雪抄事あり兼好法師の経抄等
に用いし菴及愚翁事なり〜 法が納言乃奇紙乃け本をとりし
られし事あり〜 又一本乃る〜 法が納言乃奇紙あり〜
所〜 かりりあり〜 こと〜 多本と云ふ事〜 中よりよき
を用い侍る

け草紙は中古の季經乃抄十冊ありと云侍る侍れといふ
尺侍るす只多年の草紙をよみ〜 心より念ふ事あれむ
食事も忘れ〜 かの〜 侍る 林抄抄事ども
延喜式西宮抄少抄又け双葉より及乃虫あり〜 事
〜 ありあれむ 江比等材少抄雲圖抄二条大園法西抄年中
抄事れ奇合れ詔一条福園法西乃事根原などかんぐ
官位乃るハ官位令職原折百寮訓要抄ありと用い家
ありハ順和名集拾枝抄あり 勘々名取ハ奇抄等ありとり
け草紙をよくはたせしむる故ハ八雲抄抄をとり分て

七月の雪の降りたるあり
夏を愛する人跡も
月乃の雪はさきより
月乃の雪はさきより
月乃の雪はさきより

結語おもしろい
又所をいふはさき
あきしうはさき
あきしうはさき

正月一月八日
正月一月八日
正月一月八日

七種の菜作
七種の菜作
七種の菜作

河海折云七種ハ
河海折云七種ハ
河海折云七種ハ

例いさしとさき
例いさしとさき
例いさしとさき

いさしとさき
いさしとさき
いさしとさき

正月一月八日
正月一月八日
正月一月八日

七種の菜作
七種の菜作
七種の菜作

河海折云七種ハ
河海折云七種ハ
河海折云七種ハ

例いさしとさき
例いさしとさき
例いさしとさき

つねに
めりつらぬわくは月の中
くえなれぬしよ葉の
かきつゆをえられぬ
殺わらうも怒り

白馬の陣
とていし 年中行事
奇合に三條大内侍
七月七日をせらるる
はるの陽乃けし物し
をまれりて

六月七日をせらるる
御楊
御殿安敷設宴於五位上
己而内膳進進青海
兵丁省進五位已上
是青了娘也

延喜式に
河海
六年
御楊

御殿安敷設宴於五位上
己而内膳進進青海
兵丁省進五位已上
是青了娘也

延喜式に
河海
六年
御楊

御殿安敷設宴於五位上
己而内膳進進青海
兵丁省進五位已上
是青了娘也

延喜式に
河海
六年
御楊

御殿安敷設宴於五位上
己而内膳進進青海
兵丁省進五位已上
是青了娘也

延喜式に
河海
六年
御楊

御殿安敷設宴於五位上
己而内膳進進青海
兵丁省進五位已上
是青了娘也

延喜式に
河海
六年
御楊

御殿安敷設宴於五位上
己而内膳進進青海
兵丁省進五位已上
是青了娘也

延喜式に
河海
六年
御楊

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

おろりてわらわを
立部
しそとてあまの
友まのゆきさちび
をりある人
あどちひや
きりどあき
白粉職人多
きりきり
くろき
いと
るるき

裾直衣 面白裏赤袴
直衣はつひの小なりし
こころ。大つと白きから
乃ちやを角巾。或は平納
裏平納。ほろもる。枕花
葉華あり。あ

枕花葉葉云一様。後出
袷有憚之時。畧之。但衣
草篋着也。こね直衣乃
らり。ひ乃ひひひひひひ
まうり乃こま。袷の
流形乃事。四月中の
角乃目。勅使乃事
後。乃次。第。乃事。乃
次。第。小。乃。延。喜。式。大
政。官。式。云。凡。賀。茂。二。社
四。月。中。酒。祭。舟。内。親。皇
向。社。史。一。人。九。右。史。生。各
一。人。官。掌。一。人。向。祭。所。檢
校。諸。事。山。城。国。司。預
録。祭。日。中。官。差。勅。使

今奉幣并有走馬
り。ら。ら。せ。ん。る。白。の。系
あ。を。ら。ら。し。も。し。う。あ。の
一。様。枕。花。云。青。栴。葉。も
表。青。丹。裏。青。二。藍。ハ
赤。花。と。事。は。な。く。後。乃
ら

河海お云給。檀也。優
野分事。に。あ。う。ひ。の。め
ゆ。ま。わ。ら。ひ。さ。う。け。り。と。又
お。い。ぬ。り。や。け。し
ふ。あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

けいし。の。の。の。の
けいし。の。の。の。の。の。の
背。代。れ。く。和。名。集。ぶ。の

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

けいし。の。の。の。の
けいし。の。の。の。の。の。の
背。代。れ。く。和。名。集。ぶ。の

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

あ。ま。り。き。い。り。つ。こ
は。續。け。ぬ。い。ち。の。紙。一
く。つ。り。の。こ。を。れ。用。さ。に
な。せ。ら。れ。あ。つ。ふ。さ。を。こ
す。う。こ。未。濃。か。を。も
白。く。き。し。う。と。あ。ま。も
紺。も。も。う。う。め。さ。き

查乃おれあれどもは若は
さうりきこしつれは
世帯をさすもさる
おの目ださるるし
らうとごともやし
長者や東寺乃長老
をあり。彼童女乃其
末とくおしとく練あ
りしとありし
わりのさすもさる
に次第賀茂系路頭の次第
さるりや。イ本いふとさる
もさるりや。彼童女乃其
もさるりや。彼童女乃其

ことくあるもの
異事

法師乃の俗人の御
彼乃の俗人の御
を演説すを
と結名院乃の
かき女乃行 身
し女乃のさすもさる
男乃のさすもさる
けのさすもさる

是の上藤乃乃の
あはれ花お茶に
そふふふふふふ
ひいふふふふふ
あけふふふふふ
もふふふふふ
おのり子乃を
そより異事
りふふふふ
をさすもさる
法師乃の俗人の御
さるりや。彼童女乃其
末とくおしとく練あ
りしとありし
わりのさすもさる
に次第賀茂系路頭の次第
さるりや。イ本いふとさる
もさるりや。彼童女乃其
もさるりや。彼童女乃其

さるりや。彼童女乃其
末とくおしとく練あ
りしとありし
わりのさすもさる
に次第賀茂系路頭の次第
さるりや。イ本いふとさる
もさるりや。彼童女乃其
もさるりや。彼童女乃其

ことくあるもの
異事

法師乃の俗人の御
彼乃の俗人の御
を演説すを
と結名院乃の
かき女乃行 身
し女乃のさすもさる
男乃のさすもさる
けのさすもさる

是の上藤乃乃の
あはれ花お茶に
そふふふふふふ
ひいふふふふふ
あけふふふふふ
もふふふふふ
おのり子乃を
そより異事
りふふふふ
をさすもさる
法師乃の俗人の御
さるりや。彼童女乃其
末とくおしとく練あ
りしとありし
わりのさすもさる
に次第賀茂系路頭の次第
さるりや。イ本いふとさる
もさるりや。彼童女乃其
もさるりや。彼童女乃其

安んずるにふしむるは
御ふれをいふるに
さうりけいせし

と西せしむるに
いふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

自職曹司行啓平生昌于

時中宮前大進云云前馬

守後正四位下幡摩守

經文章生贈三位弥枝二

男中納言惟仲等

中宮大夫中宮亮大進少

進みとき侍れはるの

車とさくさくよ友人

さや乃出さるる

皇右宮定子乃侍る

中園白道隆公乃侍る

一条院乃右宮敷康親王

一品宮女二宮女の侍母

法が納之乃主亮生昌

か家一初初乃由勅物と

らんや乃いねいりらんや

禁中乃のやに陣屋の

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

乃らけいせしむるに
御ふれをいふるに
さうりけいせし

懐下條金銅金物之稱

皇以下四位以上通用

これ唯之乃由事

ありつゝやけしこれ

車ありて之をたしと

いしに伴ふる事あり

人をもたせし事あり

これこれいふ事あり

いふ事ありて月

にやもさうゆり候

のこりりりりり

に候事あり

これこれいふ事あり

いふ事ありて

必夜候ありて

乃車をいひて

さうりて事

蒙末ありて

本にいひて

いふ事あり

進士の字ハ

おがれに及

とていふ事あり

士とていふ事あり

これこれいふ事あり

いふ事ありて

家ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

いふ事ありて

とすハ天乃乃の信勝乃
名ハ勝乃供也。而も其の
名ハ勝乃供也。而も其の
朝餉間信勝乃南
入る。動物源忠隆
長保二年正月廿日
陸奥守從四位下滿忠男
あつし。てかりさつ

内裏の犬を物より
御下知所衆灌口
衆入縁下持出下畧

職原抄云。甚武勇之輩
可補之。貞世人
以矣。誰どもさし

あつし乃犬の
とすハ。乃乃犬を信勝
あつし。てかりさつ

とすハ。乃乃犬を信勝
あつし。てかりさつ

あつし。てかりさつ

ありてかりさつ。此令婦
とすハ。乃乃犬を信勝
あつし。てかりさつ

いねと。乃乃犬を信勝
あつし。てかりさつ

かりか。乃乃犬を信勝
あつし。てかりさつ

いさ。乃乃犬を信勝
あつし。てかりさつ

たりか。乃乃犬を信勝
あつし。てかりさつ

らひ。乃乃犬を信勝
あつし。てかりさつ

とすハ。乃乃犬を信勝
あつし。てかりさつ

とすハ。乃乃犬を信勝
あつし。てかりさつ

あつれまらり。 ちねんこふ
を畧してしひつり。 何
とすかひもさねぬし
ついでに
かゝるいぢやん 彼れを
うかよめやう天の比を
すし

ち近う入るし
あふち近内付とある同
人々とし。 ち近内付は五
條子内親王をせむ時
湯殿ま内よりあつれ
事せしち近内付も
ていしあり。 同書教原
教にせられたるち近内付
どのち近内付の例も
こあつれやうとすし
又し

ち近内付とある同
人々とし。 ち近内付は五
條子内親王をせむ時
湯殿ま内よりあつれ
事せしち近内付も
ていしあり。 同書教原
教にせられたるち近内付
どのち近内付の例も
こあつれやうとすし
又し

ち近内付とある同
人々とし。 ち近内付は五
條子内親王をせむ時
湯殿ま内よりあつれ
事せしち近内付も
ていしあり。 同書教原
教にせられたるち近内付
どのち近内付の例も
こあつれやうとすし
又し

ち近内付とある同
人々とし。 ち近内付は五
條子内親王をせむ時
湯殿ま内よりあつれ
事せしち近内付も
ていしあり。 同書教原
教にせられたるち近内付
どのち近内付の例も
こあつれやうとすし
又し

大乃まびけあつれ。 わあきこあつれけを
あつれまらり。 ちねんこふ
を畧してしひつり。 何
とすかひもさねぬし
ついでに
かゝるいぢやん 彼れを
うかよめやう天の比を
すし

あつれまらり。 ちねんこふ
を畧してしひつり。 何
とすかひもさねぬし
ついでに
かゝるいぢやん 彼れを
うかよめやう天の比を
すし

あつれまらり。 ちねんこふ
を畧してしひつり。 何
とすかひもさねぬし
ついでに
かゝるいぢやん 彼れを
うかよめやう天の比を
すし

あつれまらり。 ちねんこふ
を畧してしひつり。 何
とすかひもさねぬし
ついでに
かゝるいぢやん 彼れを
うかよめやう天の比を
すし

権中將 勳功 推中將威
信 四品兵部少輔平親王男
從四位上九連中將は名
去六年

定於信於 勳功 長保
二年三月十七日 以定證
補 眞福寺別當

山 眞福寺
眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺

眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺

眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺

眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺

眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺

眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺

眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺

眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺

眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺

眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺
眞福寺 眞福寺

を山まきてしり別ありしりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

しりてよるるび
しりてよるるび
しりてよるるび

勢多て執事等々
取云乃後を批判乃
此の事

村上帝向し
右人等とて
多ひとて此氣根を
威乃知

中宮の直物
ア一女
らガ下
え

人のむと
内侍
令入
持相
推入
内侍
一

女乃乃
女乃乃
と

女乃乃
女乃乃
と

あつとあり
一条乃
うもき

内侍
まき

あつとあり
まき

あつとあり
まき

あつとあり
まき

あつとあり
まき

あつとあり
まき

あつとあり
まき

あつとあり
まき

あつとあり
まき

あつとあり
まき

